

特集 沖ノ島祭祀を奉獻品から考える2

I 「伝沖ノ島出土返納品」調査の概要

岡寺 未幾 福岡県九博・世界遺産・文化施設課

1. 調査の経緯

古代、沖ノ島の祭祀で捧げられた奉獻品は「東アジアの古代国家間の交流を物語る物証」として世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（以下、「本遺産群」という）の価値の中核をなす。このことから、本遺産群の保存管理・公開活用を担う「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会（福岡県、宗像市、福津市及び宗像大社、以下「協議会」という）では、奉獻品の調査研究を推進する立場にある。

令和4・5（2022・2023）年に『国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品 保存活用計画』（宗像大社2024）が、福岡県及び宗像市の協力の下、宗像大社が主体となってまとめられた。この計画で奉獻品の課題が明らかになり、再整理の必要性が高まったものの、8万点という質・量ともに膨大な資料群である。再整理の前の段階として、奉獻品の全体像の把握が喫緊の課題である。

なお、本協議会が、別途取り組んできた特別研究事業でも、沖ノ島祭祀のより解像度の高い祭祀の解明が課題となっており、この文脈からも奉獻品の調査研究にもとづく古代祭祀の復元というアプローチは長らく待望されてきた。

これらの状況を踏まえ、令和6（2024）年度から第2期特別研究事業⁽¹⁾の中で、4名の古墳時代の専門家とともに国宝部会を立ち上げ、調査研究を実施している⁽²⁾。

初年度である令和6年度は国宝「福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品（以下、「国宝 沖ノ島出土品」という）」の全体像の把握を試み、鏡・金属製品（7・8号遺跡）・石製品・滑石製品の調査を行い、その成果は『沖ノ島研究』第11号「特集 沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」において報告した通りである。

2カ年目になる令和7（2025）年度は「伝沖ノ島出土返納品」の調査を行った。返納品の詳細は次章に譲るが、明治以降、沖ノ島に軍事施設や港湾施設が建設された際、島外へ持ち出され、その後、宗像大社へと一括で返納された資料である。ただし、その質と内容から沖ノ島から出土したことが確実とされるものである。なおこれまで学術的な評価がされておらず、文化財指定は受けていない。返納品は、鏡、甲冑片を含む金属製品、貝製品、石製品・石製模造品、であり、宗像大社神宝館での調査を行った。甲冑については、金銅装甲冑片が確認されたことから、関連する21号遺跡出土国宝の調査を追加で行っている。本号では、この調査成果報告を収録するものである。ただし、収録するレポートは、昨年同様、非常に短期間で行った調査成果の概要であり、本来的な調査成果については、今後に譲りたい。

2. 国宝部会の活動

国宝部会のメンバー及び令和7年度の活動は以下の通りである。

（1）国宝部会メンバー：

河野 一隆（東京国立博物館学芸研究部長）
辻田淳一郎（九州大学教授）
橋本 達也（鹿児島大学総合研究博物館教授）
水野 敏典（奈良県立橿原考古学研究所企画学芸部資料課長（兼）保存科学センター長）
岡寺 未幾（福岡県人づくり・県民生活部文化振興課九博・世界遺産室）
太田 智（宗像市世界遺産課）
福岡真貴子（宗像大社文化局）

（2）国宝部会の実施

第一回（オンライン）

日 時：令和7年9月18日（木）

議 題：今年度事業について

第二回（オンライン）

日 時：令和7年12月8日（月）

議 題：調査状況・報告書執筆

第三回

日 時：令和8（2026）年3月9日（月）

場 所：宗像大社神宝館

議 題：調査成果の報告と検討

（3）資料調査

ア．神宝館における調査

・鏡

調査者：辻田 淳一郎

日 時：令和7年10月10日（金）

・金属製品・貝製品

調査者：橋本 達也、水野 敏典

日 時：

令和7年8月5～8日（火～金）※橋本氏のみ

令和7年9月24・25日（水・木）

令和7年10月27・28日（月・火）

・石製品・滑石製品

調査者：河野 一隆

日 時：令和7年11月13～15日（木～土）

イ．関連資料の調査

・元興寺文化財研究所

調査者：橋本 達也

日 時：令和7年8月20日（水）

・福津市カメラiasステージ歴史資料館

調査者：橋本 達也

日 時：令和7年12月1日（月）

3. 調査成果と今後の課題

国宝部会の今後の活動としては、令和8年度に第3回国際検討会での調査報告、令和9（2027）年度に報告書の執筆、令和10（2028）年度に英文報告書の執筆が予定されている。つまり、国宝部会による奉獻品を対象とした調査は昨年度で一旦終了する。

国宝部会での奉獻品の調査はわずか二年の短期間であったが、金銅製矛鞘内部に象嵌が残る鉄鉾が発

見されたのに続き、令和7年度は金銅装甲冑が発見されたことをはじめ、大きな成果を上げたといえる。

今回の調査は、あくまで沖ノ島の奉獻品を今後どう再整理していくか考える検討材料を集める為の、大枠を把握する概要調査にすぎない。にもかかわらず、二年連続でここまで目立った成果が出るのは、いかに国宝沖ノ島出土品が、歴史的に重要な価値を帯びているのかを雄弁に物語っていると考ええる。

古墳時代は文字記録のない時代だが、沖ノ島に捧げられた奉獻品は、古代の王権が東アジアの国々との交流の中で、持てるあらゆる知識と、技術と、財力を尽くして祈り、どうにかこの難しい事態を乗り越えようと「カミ」に祈りを捧げたことを伝える。国際情勢がめまぐるしく変わる現代の私達と同じように、わたしたちの祖先が、いかに切実に、航海の安全や対外交流の成就など、様々な困難を乗り越えようとしたのかを今に伝える貴重な資料である。

さまざまな課題はあるが、本協議会としては今後も奉獻品にかかる調査を継続し、少しずつでも、前進させ、世界遺産の価値をより明らかにしていくことが出来れば、と考える。

註

（1）特別研究事業について

特別研究事業は、世界遺産委員会から受けた勧告にもとづき、平成30（2018）年より実施。詳細は下記報告書を参照。

第1期 特別研究事業（平成30から令和4年）

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 保存活用協議会2023『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 特別研究事業成果報告書』

第2期 特別研究事業（令和6年から10年）

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 保存活用協議会2025『海域のネットワーク交流と祭祀・信仰の変化―報告書』

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 保存活用協議会2026『宗像における祭祀・信仰の歴史的変遷の世界的意義』

（2）国宝部会の詳細は以下を参照。

岡寺未幾「1. 経緯」『沖ノ島研究』第11号 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 保存活用協議会

本誌のデータは、本遺産群のデジタル・アーカイブ
「MUNAKATA ARCHIVES」の「宗像研究文献」より
閲覧・ダウンロードできます。
<https://www.munakata-archives.asia/>

沖ノ島研究 第12号

令和8(2026)年7月発行

発行：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
(事務局：福岡県市町村・地域振興部文化局九博・世界遺産・文化施設課)
〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7番7号

ISBN 978-4-9913533-5-2